

かお・人・interview

2018年10月9日

新所長
インタビュー

国土交通省 九州地方整備局
別府港湾・空港整備事務所 所長

上谷 修氏

大分の海の賑わいの玄関は、国際観光港別府だ。海外、阪神方面より瀬戸内海を通り大型船が訪れる。大分空港では、温泉目的で観光客が集まる。温泉地として名高い別府と、物流を中心とした大分県内の港。それらの港と空港がもつ、ハード面、ソフト面をまとめあげるのが別府港湾・空港整備事務所だ。新任の上谷所長に、今後のみなとづくりに向けた抱負を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

九州の東の玄関口と呼ばれる大分県の港は、九州北部、東側の海岸に位置しています。そのなかでも古くから湯の町として名高い別府市には、国内外から多くの観光客が訪れます。中国からは大型クルーズ船の寄港など、地理的条件も整っており交流の拠点になっています。今後、ますますの発展が期待される港として人流を含めた旅客対応ターミナル周辺の整備を強化したいと考えています。

また、近年の自然災害に関して、別府港は耐震強化岸壁工事（第四ふ頭の水深 10m 岸壁）が平成 23 年 3 月に完了し、別府地域の防災拠点になっています。そのほかの港も耐震強化岸壁や防波堤などの整備を進め、地元港湾建設企業や地域の皆様と連携しながら防災・減災を推し進めてまいります。



▲耐震強化岸壁（写真提供：別府港湾・空港整備事務所）

大分空港については、全国屈指の観光リゾート地であり国内外からの観光客に対応するため空港施設の安全向上を進めてまいります。

Q 大分県や九州地区との関わりについて

博多、熊本の港湾・空港整備事務所勤務などを経て別府に着任し、大分での勤務は初体験です。長年、港湾・空港事業に多く携わってきたため、港や空港の社会的な役割の大きさは実感しています。特に、熊本港湾・空港整備事務所長として着任後 2 週間後に発生した熊本地震（2016 年 4 月）では貴重な経験をさせていただきました。私自身、震度 7（居住地の熊本市内は震度 6 強）の大きな地震を経験したのは初めてで、熊本市内も大混乱となりました。

古くから別府の港が運ぶのは「人」がメインです。
 多くの「物」は、大分港やほかの港に運ばれます。
 ほかに、佐伯、津久見はセメントや造船、中津は自動車など。
 大分県では、“自然”と“港”のすみわけが生まれました。
 別府は九州の港湾の中でも特殊な存在かもしれません。

港湾では、熊本港が臨港道路、駐車場が液状化の影響により陥没し、島原フェリーの可動橋等にも被害が発生し航路の欠航を余儀なくされましたが、連日の深夜まで応急復旧工事を行い6日後の4月22日にフェリー航路を再開することができたことにより長崎方面からの緊急支援物資等のルートを確認することができました。また、熊本県内の各港では支援物資の搬入、国土交通省所有の海洋環境整備船等を活用した給水・入浴支援の実施、ホテルシップ(避難者が宿泊できる船)の活用など、関係機関とさまざまな協議、調整を図りながら、事務所職員とともに職場に2週間寝泊まりしながら災害対応を行いました。港湾の災害時に果たす役割について熊本地震を経験し、その大切さをあらためて認識させられました。

そのほか、福岡県大牟田市勤務時代には、2017年7月に世界遺産に登録された三池港の開港100周年記念事業、鹿児島県指宿市勤務時代には、指宿港直轄港湾海岸整備事業の事業化にも携わり、2度の自治体への出向経験では地域の方々の声を身近に聞きながら、港湾を生かした地域活性化について数多くの事も学ばせていただきました。

Q 当事務所の紹介

(事業内容、組織、特徴)

大分県には国際観光温泉文化都市別府の海の玄関口である別府港、大分臨海工業地帯を中心とした大分港、セメントや石灰石の積出港である津久見港、県南地域の物流拠点である佐伯港、県北地域における流通拠点港湾としての中津港の5

つの重要港湾と、国東半島の中心的な役割を担う国東港、古くは南蛮貿易時代から栄えた臼杵港などの地方港湾があります。

当事務所の主な事業は、重要港湾の機能強化のための岸壁や航路等の港湾整備事業、津波・高潮被害に備えた港湾海岸整備事業、大分空港では、南海トラフ巨大地震への対応、緊急物資輸送等輸送拠点としての機能確保、航空機の安全・安心を確保するため空港の耐震化を実施してまいります。

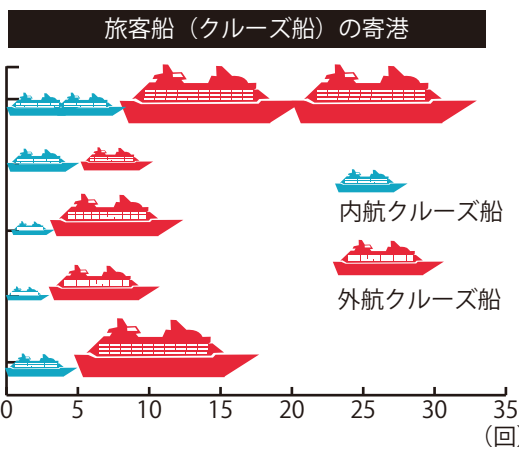
また、普段は馴染みが少ない港を理解してもらおうと、出前講座を一般や小中学生向けに行っています。港湾物流は陸路、空路に比べると時間がかかりますが大量の貨物を運ぶことができ、近年はドライバー不足、高齢化により1人あたりの長時間労働につながるなど、港湾物流の変化や特徴などを職員が直接講義します。

ほかに別府港は、地域交流拠点施設及び地区として平成20年4月「みなとオアシス別府港」に認定を受けました。平成22年8月に整備された餅ヶ浜里浜ビーチが併用され、様々なイベントを開催しています。このにぎわい交流拠点は

大分県では九州第1号認定の「みなとオアシスかんたん港園」と「みなとオアシス津久見」の3カ所のみなどオアシスも登録されています。

Q 平成30年の事業概要

大分県内では南海トラフ巨大地震が懸念される中、17年に「大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業」が着工、建設後50年以上経過した海岸施設の老朽化が進行しており、防護機能の低下により甚大な被害が



想定されることから事業の進捗を図ります。また、別府港は国際観光温泉都市「別府」の海の玄関口として「旅客対応ターミナル整備事業」を進めています。

大分港は西大分地区と近畿圏を結ぶフェリー航路における安定的な海上輸送の確保、非効率な荷役形態の改善、施設の老朽化対策として「複合一貫輸送ターミナル改良事業」を進めています。

大分空港では、地域と連携した防災拠点とするための耐震対策として滑走路の地盤改良（液状化対策）工事、インフラ長寿計画に基づく老朽化対策として滑走路の改良工事を実施中。なお、2017年に地盤改良工事において滑走路に隆起が生じたことが原因で滑走路の閉鎖を招いたことから、再発防止対策には万全の態勢を整えて工事を進めています。

Q 地域との連携・協働について



今年の8月に佐伯市の佐伯港（女島地区）岸壁改良工事の見学会を行いました。参加したのは約20名、佐伯市役所と佐伯商工会議所の職員です。ジャケット（鋼管で組み立てたトラス構造）長さ69m、幅25m、高さ約10mを未整備区間に約45分かけて設置。作業現場を見ていただき、港湾建設業という仕事に理解を深めてもらうのが目的です。今後もこれらの取り組みは継続的に実施したいと考えております。

地域住民と触れ合う機会は多くありませんが、今後も工事の内容を検討しながら、地域住民向け、学生向けなどさまざまな企画を行い、港の役割について考えるきっかけを作っていきたいと考えます。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

地元精通した港湾建設企業が存在することは、平時の港湾整備、維持・更新はもとより、災害時における迅速な応急復旧対応に際しても大変心強く思っています。こうした地域の安全・安心を担っている地元企業が将来に亘って継続してその役割を担っていくためには、地元中小企業向けの受注機会の確保は重要な課



建設業を魅力ある職場とするには
私たちが受注業者と連携し
推進していくしかありません。

題と考えており、引き続き、受注機会の確保に取り組んでいきたいと思っています。

また、働き方改革では、週休2日の確保に向けた適正な工期設定、荒天による工程変更や必要な費用を精算する「荒天リスク精算型」、週休2日又は4週8休を達成した場合は、工事成績評定において加点する「休日確保型」の試行工事にも取り組んでいきます。

Q 趣味、健康法について

野球観戦や、湾岸沿いのドライブが楽しみです。応援する球団はソフトバンクホークス、時間に余裕があるときは必ず球場まで出向きます。最近はなかなかその機会に恵まれず、TV観戦が中心で残念です。

また、趣味のドライブは別府に限らず、赴任先では地形沿いに走るよう心掛けています。道幅や高低差、眺望など新たな魅力も発見できます。大分南部の海岸線は、リアス式海岸が広がり風光明媚な景色は心に残ります。

プロフィール



出身地：鹿児島県日置市
生年月日：昭和35年6月13日生（58歳）
昭和54年4月 第四港湾建設局 工務第一課 採用。
平成15年4月 九州地方整備局 企画部
企画課長補佐
平成17年4月 九州地方整備局 港湾空港部
港湾事業課長補佐
平成19年4月 大牟田市 産業経済部 副参与
平成21年4月 九州地方整備局 苅田港湾事務所 工務課長
平成24年4月 指宿市 建設部 参与
平成26年4月 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所 副所長
平成27年4月 九州地方整備局 港湾空港部 港湾整備・補償課長
平成28年4月 九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所長
平成30年4月 現職